

## ④宮交ボタニックガーデン 青島リニューアル事業

受賞機関 宮崎県 県土整備部 都市計画課  
宮崎県 県土整備部 営繕課  
宮崎県 宮崎土木事務所

キーワード 植物園の再生事業、地域の活性化

## 全建賞審査委員会の評価ポイント

宮崎市の青島入口という地の利は得ているものの、施設の老朽化や樹木の高木化などで鬱蒼とした雰囲気となり、魅力の低下や利用者の減少などの課題を抱えていた植物園のリニューアル事業。

リニューアルを契機に、近隣の民間施設も含めた地域の活性化が見られるなど、一体的な相互利用が図られ、来場者が約11万人から約50万人に大幅に増加し、青島地区の新たな魅力の創出に貢献できている点が評価された。

## 1. はじめに

宮交ボタニックガーデン青島(県立青島亜熱帯植物園)は宮崎市の青島に位置し、年間約90万人の観光客が訪れる青島神社(宮崎県内でも有数の観光地)の参道に隣接している。

昭和40年に青島の特別天然記念物ビロウ群落や亜熱帯植物の保護、学術研究及び自然科学の教育施設として開園した。同年10月にはシンガポール植物園と姉妹植物園の証を交換し、技術者派遣や植物の寄贈を受けるなどの交流を行ってきた。

そのような中、開園後50年が経過した各施設の老朽化や耐震上の理由などから、平成26年3月に各施設の建替方針が決定し、有識者や地元代表の方々に構成された「県立青島亜熱帯植物園整備検討委員会」を設置して建替計画を策定し、事業を行うに至った。

## 2. 事業の概要

老朽化などの理由に加え、樹木の高木化で鬱蒼とした雰囲気となっており、植物園としての魅力低下や利用者の減少などの課題があり、施設の建替と園内景観(樹木の間引き、園路改修など)の一新を図った。

今回の事業では、老朽化した旧大温室を様々な視点から多種多様な植物を観賞できるように回廊式のスロープを備えた施設に建て替えた。また、青島地域などの情報を発信する観光案内ブースや休憩所を備えた管理棟、植物を見て触れて学ぶことができる学習室を整備した。

園内景観については、植物の緑が映え園内全体が明るくなるように脱色アスファルト合材(土色)でメイン園路を整備した。また、メイン園路中央に位置するブーゲンビリアの植栽柵(ロータリー花壇)を見応えある装飾ができる構造に整備した。さらに、木々の間から海が展望できるよう樹木の間引きを行い、鬱蒼とした雰囲気から一転、明るい園内景観へと向上させた。



外苑



大温室

## 3. 事業の成果

当該事業を契機に、隣接する商業施設のリニューアルや、宿泊できる温泉施設が新規オープンするなど、地域が一体となったおもてなしと賑わい空間の創出に取り組んだことにより、リニューアル後の来園者は、平成29年度末現在、外苑で約4倍(前:約98,000人、後:360,000人)、大温室で約8倍(前:約18,000人、後:約140,000人)となっている。

これは、リニューアル後に宮崎県が行ったPRや来園者のSNS発信などによって、全国的に知名度が上がり、曜日を問わず観光客が訪れるようになったことや、国外からの観光客(中国、台湾、東南アジア圏)のツアーに青島地域一帯が盛り込まれたことなどが、来園者の大幅増となった要因と考えられる。

宮交ボタニックガーデン青島のリニューアルにより、今後益々、地元と一体となった取組みの輪が広がり、青島地域の活性化に資するものと期待している。